

領域	専門分野 I	授業科目	基礎看護技術Ⅲ-2	単位 (授業時間/時間数)	1 (28/30)
開講年次	2年次	開講時期	通年	授業回数	14回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえて臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

治療・診療に伴う援助技術として、与薬、症状・生体機能管理技術について基本的な看護援助技術を学ぶ。与薬技術は直接的な生体侵襲が大きいため、安全かつ正しい指示に基づく正確な与薬方法について、演習モデルを活用し学習する。症状・生体管理技術における生体情報のモニタリングは、看護師が患者をアセスメントする方法の1つである。適切な方法により得られた情報が、患者把握のための手掛かりとなるため、実際にME機器に触れながら学びを深めていく。

授業目標

1. 薬物療法における看護師の役割と責務について述べることができる。
2. 各与薬法の特徴と援助方法、安全に実施するための注意事項を説明できる。
3. 各注射法の準備・実施・後始末が正しくできる。
4. 輸液ポンプを用いた輸液管理の方法を説明することができる。
5. 検査を受ける対象とその対応について学ぶことができる。
6. 輸血時の看護師の役割と主な検査時の看護の実際について述べることができる。

授業概要

1. 与薬の技術 (20時間)
 - 1) 与薬の基礎知識
 - 2) 経口与薬・口腔内与薬、吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬、注射
 - 3) 輸血管理
2. 症状・生体機能管理技術 (8時間)
 - 1) 症状・生体機能管理技術の基礎知識
 - 2) 検体検査
 - 3) 生体情報のモニタリング

授業の進め方

講義、演習 (ジグソー共同学習)

教科書

系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II (医学書院)
看護技術プラクティス (学研)

参考図書

評価方法

客観式テストおよび演習取り組み状況による総合評価(70点 30点)
試験時間は時間数に含む。